

地域での学びを世界へ～農業と林業を生かす環境教育

大竹市立栗谷中学校

1 活動概要

本校では、地域を題材にして、平成17年度から大竹市立栗谷小学校との連携学習を進めている。この学習は、「ふるさと栗谷を愛し、グローバルに考え、行動できる子どもを育てていく」ことをねらいとし、地域を題材として未来につながるものを見つけていくことを内容としている。地域の良さ（自然・人間・文化・つながり）を生かした学習を進め、自分を見つめることと他者とのつながりを大切に、「生きる力」を育んでいきたいと考えている。

具体的には、総合的な学習の時間において、4つの学習領域「自然にやさしい農業」、「水とのち」、「身近な他者との関わり」、「森の学習と未来への選択」を設定して取組を進めている。

2 本実践事例について

(1) 本事例実施の背景・これまでの取組

小学校第5・6学年の児童と中学校第3学年の生徒の連携学習では、「森の学習と未来への選択」の学習領域で、地域での学びを通して地域の良さを継承し、更に発展させていくという自分たちの役割に気付かせることをめざしている。

生徒は、地域の良さの1つに「自然環境の素晴らしさ」を挙げるものの、地域が抱える課題（過疎化や高齢化）や、地域の森林の喪失状況、里山文化の人的なつながりの大切さに対する関心が低い。そのため、森林の生態系やはたらきについて調べ、地域の方々と一緒に活動する学習を進める中で、地域の森林の状況や人間との関わりがどのように推移してきたかについて理解を深めさせてきた。

本事例では、さらに発展させた学習として、森林保護のための今日的課題や再生可能な資源の有効活用について学習し、自分たちがどのような関わり方ができるのかについて考えさせた。

(2) 指導のポイント

- ☆ 小学校との交流を通して、異年齢集団での他者の意見を受け入れつつ、自分の考えとの相違点を踏まえながら合意形成していく態度を身に付けさせる。
同様に地域の高齢者などとの関わりを通して、異なる立場や価値観をもつ他者を尊重し、共に考えていくことがよりよい未来を築くことにつながっていくことを実感させる。（付きたい力2）
- ☆ 生徒が何となく感じている栗谷の「自然環境の素晴らしさ」を、森にいる鳥や植物の観察を通して具体的に実感させるとともに、その環境を維持するためには手入れの継続が必要なことを地域の人々の取組から学ばせる。
- ☆ 過疎化や高齢化といった地域の課題を踏まえながら、地域での学びを通して、持続可能な地域社会の実現に向けた自分たちの役割を考えさせる。（付きたい力3）



3 学習指導案

◎本時の授業…実際に森に入り、鳥や植物などの生態を観察したり森を手入れしたりして、森の働きや手入れの大切さを実感した上で自分たちにできることを考えさせる実践である。

(1) ねらい

「森のはたらきと利用」について発表し、小学生やバイオマス研究会の専門員と意見交換する中で、地域の資源の活用を考え、地域の未来を考えるために持続可能な開発の必要性を認識する。

(2) 対象学年 第3学年（小学校第5・6学年）

| | 学習活動 | 指導上の留意事項 | 評価 |
|-----|---|---|--------------------------------------|
| 導入 | 1 目標の確認 「森のはたらきと利用」について考えよう。 | | |
| | 2 庄原市のバイオマス研究会の専門員にインターネットで、発表を聞いてもらい、あとで話をしていただくことを伝える。 | ・児童生徒の学習意欲を喚起する。 | |
| 展開 | 3 小学生は「森のはたらき」について発表し、中学生から質問を受ける。 中学生は「森のはたらきと利用」について発表し、小学生から質問を受ける。 森のどんな活用方法が考えられるかアイデアを出し合おう。 | ・児童生徒から出た質問や意見をまとめて板書する。 | ○自分が調べたことや考えたことを正確に、分かりやすく伝えている。(観察) |
| | 4 調べたことや考えたこと並びに森の手入れの作業から、森のどんな活用方法が考えられるか、アイデアを出し合う。 ・グループで話し合ったことをワークシートにまとめ発表する。 ・発表について、バイオマス研究会の専門員に意見をもらう。 ・専門員の意見についての感想を発表する。 | ・三倉の山林の具体的な手入れの内容を引き出す。 ・児童生徒の話し合いを活性化させるために教師が話し合いをリードする。 | |
| まとめ | 「森のはたらきと利用」について、発表を聞いたり、話し合ったりしてわかったことや考えたことをまとめよう。 | | ○分かったことや考えたことをまとめている。(自己評価カード) |
| | 5 みんなが出したアイデアや専門員の話からさらに森の活用方法を考えていくことを伝える。 | ・教師の評価を伝える。 | |



4 生徒の反応（授業後の感想等）

- 森をガイドしてもらって、葉の裏に字が書ける木があることや、食べられる葉っぱがあることを初めて知った。葉が堆積して微生物で分解されている状態を見て、慣れ親しんでいた森の新しい発見をした。日常では気付かない森の様子を知ることができ、森の豊かさを感じることができた。
- 森の手入れの作業によって、広葉樹にとっては地面まで陽が入るよさがあり、スギ林では大きなスギだけが残って成長を早めるようにすることが分かった。



- 「バイオマス研究会」の方から、ペレットストーブを借りて学校で使用した。ペレットストーブの炎はほのかな炎で、体だけでなく心まで温まる感じがした。森の手入れから始まり、最後は自分たちが作った燃料でストーブをたいていると思うとうれしい気持ちになった。